

新聞の偽装部数「押し紙」

公共広告のサギ・政官界との癒着・ジャーナリズムの崩壊・資源の無駄遣い

昔から新聞ほど批判の対象になってきたメディアはほかに例がありません。新聞ジャーナリズムを再生するには何が必要なのかとか、どうすれば同時代の実像を生々しく表現できる記者を育てられるのか、といった問題に対して数多くの識者らが、延々と提言を繰り返してきました。

しかし、最も肝心な部分、新聞社経営の闇については、故意に議論を避ける傾向がありました。たとえば新聞社が公称部数を偽ってきた事実。新聞販売の業界団体から政界に政治献金が流れている事実。こうした経営上の重大汚点と新聞ジャーナリズムの「正義」は、はたして共存できるのでしょうか。

集会では、左派や右派といった思想信条の違いを超えて、「押し紙」問題を柱に、現在の新聞社経営の実態とジャーナリズムについて考えます。

【「押し紙」とは】

「押し紙」とは、新聞社が新聞販売店に搬入する新聞のうち、過剰になったものを意味します。たとえば読者がいる新聞が3000部しかないのに、4000部を搬入すれば、差異の1000部が「押し紙」となります。広義には残紙ともいいます。この「押し紙」に対しても、新聞社は新聞の卸代金を請求します。

また、新聞社は「押し紙」政策で、新聞の公称部数をかさ上げして、紙面広告の媒体価値を高めます。こうした不正なビジネスモデルは、少なくとも1970年代から延々と続いてきましたが、新聞業界最大のタブーとして隠されてきました。

【日時】 10月2日（日）13：30から16：00。（開場13：00）

【会場】 板橋文化会館（東武東上線・大山駅下車3分）

【プログラム】

- 「押し紙」についての説明。「押し紙」回収を撮影した動画を公開する。
- 江上武幸弁護士の講演。「真村訴訟から佐賀新聞「押し紙」裁判へ」（50分）

休憩10分

■パネルディスカッション「新聞社の経営構造とジャーナリズムの実態」

司会　：黒薺哲哉（フリーランスライター）

発言者：江上武幸弁護士（弁護士）

小坪慎也市議（行橋市議）

天木直人氏（評論家）

【共催】最高裁をただす会

日本を護る市民の会

メディア黒書